入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和６年度第１回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時　令和６年５月２３日（木）１４：００～１５：３０

開催場所　本庁１５階　１５Ｃ会議室

令和６年度第１回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

１　会議名

令和６年度第１回北九州市入札等監視委員会

２　開催日時

開催日時　　令和６年５月２３日（木）１４：００～１５：３０
開催場所　　本庁１５階　１５Ｃ会議室

３　出席委員（五十音順）

城戸　將江、古林　節子、中里　彰宏、樋上　弥寿子、森江　由美子

４　議事

（１）北九州市入札等監視委員会　委員長選出

ア　森江委員が委員長に選出された。

（２）北九州市入札等監視委員会　委員長職務代理者指名

ア　樋上委員が委員長職務代理者に選出された。

（３）令和５年度第４四半期の工事契約状況等の報告

ア　次の事項について報告した。
・工事契約件数及び契約金額について
・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

（４）令和５年度第４四半期の工事契約抽出案件の審議

ア　抽出方法について

審議する案件は、令和５年度第４四半期に契約をした工事の中から、城戸委員が１０件（契約課契約分９件、東部工事事務所分１件）を抽出した。

イ　審議における質疑等

（問）　総合評価、一般競争入札による建築工事で、３０億円規模の大型工事のため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答）　工場跡地に建設される支援学校の新築工事である。
工期が長く金額も高額であり、地域要件を設けることができないＷＴＯ（政府調達協定）方式での一般競争入札となった。技術提案を評価する総合評価落札方式を採用し、参加業者は１者であったが、施工計画の内容など提案内容が良く、評価点も高かった。大阪万博や熊本半導体工場建設等の影響で近隣自治体で行われている同様の学校新築工事の入札が不調となるなかで、今回、落札者を決定できたことは前向きにとらえている。

（問）　総合評価、一般競争入札による港湾工事で、技術点が１位で、落札金額が７位のため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答）　現在の廃棄物処分場が満杯になることから新たに廃棄物処分場を造成するための工事の一環で、広い処分場のうち廃棄物処分場を分離する中仕切となる鋼矢板を海底まで埋め込み、周囲に捨石を投入して護岸を築造する工事である。

潜水作業などは非常に困難で、専門性が高いだけでなく、安全対策に配慮が必要であることから、総合評価落札方式を採用した。９者が応札し、落札業者の入札金額は７位であったが、入札価格の差はほとんどなかった。落札者は価格以外の評価がほぼ全ての項目で最高点であり、これらを総合した評価値で１位となったため落札した。

（問）　一般競争入札による土木工事で、参加業者数が多く、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答）　道路の改築工事で、市内の土木Ａランク業者を対象とした。特殊な技術を必要としない一般的な土木工事であり、手持工事が比較的少ない年度末の発注だったことから、多くの業者が参加した。参加申込業者３７者のうち、１１者が辞退、２６者が応札をしたが、ランダム係数が高かったことから、最低制限価格が高めとなり、最低制限価格を下回った２５者が失格となった。その結果、唯一、最低制限価格を上回る価格で入札した業者が落札したが、その金額が比較的高額であったため、落札率が高くなったもの。

（問）　一般競争入札による電気工事で、落札率が低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答）　道路照明のＬＥＤ化を行う電気工事で、電気の西部地区のＡ又はＢランクの業者を対象とした。参加申請は１７者で、２者が辞退したため、１５者による競争が行われた。工事費用のうち直接工事費に係る機器費の割合が高いため、最低制限価格を設けず入札を行ったが、機器の調達においては、日頃の取り扱いや流通ルートの有無等の差が価格を左右するものであり、応札額にばらつきがある。結果、落札業者の入札金額と予定価格に差があり、落札率が低くなったものである。

（問）　指名競争入札による港湾工事で、電子契約を行った案件であることや、１億円を超える工事であるが指名競争入札とした理由を知りたく抽出した。

（答）　洋上風力発電を誘致している地区の湾岸整備を行う工事である。

当初は一般競争入札を実施したが、全ての入札参加業者が最低制限価格以下で応札したため、落札者が決定しなかった案件である。再入札にあたっては、工事完成までの期限を考慮し、指名競争入札を行った。

港湾の市内Ａランクの業者で、手持ち工事のある者を除く１３者を指名したところ、５者が辞退し、８者による競争入札となった。本市では、事業者からの申し出があれば、紙の契約書ではなく電子署名により契約を交わす電子契約を令和６年２月に開始した。本件は落札業者から電子契約を行いたいとの申し出があったため、電子契約による契約を締結したものである。

（問）　指名競争入札による電気通信工事で、落札率が低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答）　施設の非常放送設備を更新する工事である。市内の電気通信業者の８者を指名したところ、２者が辞退、６者による競争入札が行われた。

先に説明した案件と同様、工事費用のうち直接工事費に係る機器費の割合が高いため、最低制限価格を設けず入札を行った結果、落札業者の入札価格と予定価格に差があり、落札率が低くなったものである。

（問）　指名競争入札による内装仕上工事で、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答）　市営住宅の建替えに伴い全部屋の畳を一括して敷き込む工事である。市内の西部地区に所在する内装仕上業者で、経営事項審査の有効期限が切れている１者を除く７者を指名したところ、１者が辞退、６者による競争となった。内装仕上工事は発注件数も少なく、専門的な工事を行う業者数は限られており、各社の応札額はいずれも高額であった。

（問）　特命随意契約による土木工事で、１者の特命随意契約となった詳しい状況について知りたく抽出した。

（答）　令和４年度から引き続き工事を行っている橋梁の下部工工事である。先行工事を行う過程で水道管やガス管が発見されて移設を行うなど想定外の事態が生じたが、出水期前までに施工を完了する必要があった。また、先行工事で施工される杭基礎と今回工事で施工する橋台が一体の構造物であり、一貫した施工が技術的に必要とされたことから、先行工事を請負った業者に特命で発注した。

（問）　一般競争入札による土木工事で、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答）　市外のダムから市内の浄水場に繋がる水管橋の補修を行う工事である。土木の西部地区のＢランクの業者を対象としたが、国土交通省が所管する箇所での工事となるため、河川事務所に許可申請を行う必要があることや出水期を避けて工事を行うため工期も短いなど制約が多い工事であったことから、３者のみの応札となった。２者が最低制限価格を下回り失格となったため、唯一、最低制限価格を上回る価格で入札した業者が落札したが、その金額が比較的高額であり、落札率が高くなったもの。

（問）　指名競争入札による機械器具工事で、落札率が低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答）　水道施設である配水池から各家庭へ水道水を供給する際の水圧を調整するための減圧弁を取り替える工事である。減圧弁は特殊な機器であることから、製作・設置を行う業者は限られており、施工可能な６者の指名となった。

先に説明した案件と同様、工事費用のうち直接工事費に係る機器費の割合が高いため、最低制限価格を設けず入札を行った結果、落札業者の入札価格と予定価格に差があり、落札率が低くなったものである。